Life Design Focus

老い支度と子や孫の荷物

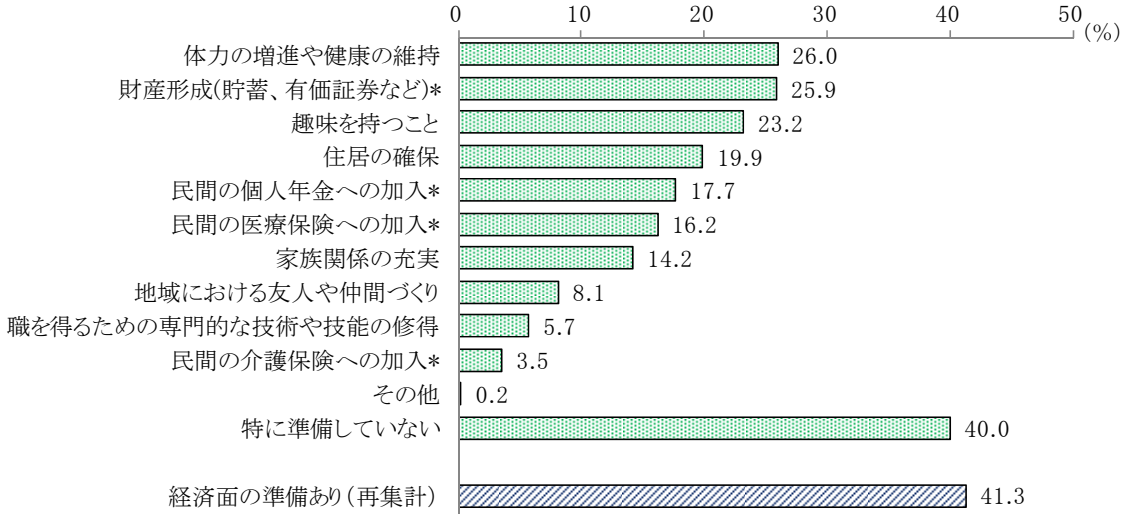
第一生命経済研究所　ライフデザイン研究本部　研究開発室　北村　安樹子

＜「老い支度」とお金＞

われわれが将来の人生設計について考える場合、来るべき高齢期に向けた準備、すなわち「老い支度」にはどのようなメニューが考えられるだろうか。多くの人がまず思い浮かべるのは、病気や介護を予防するための健康面での準備とともに、老後の生活資金や介護が必要になった場合に向けた経済面での準備であろう。実際に、当研究所が行った調査でも、「あなたは高齢期の生活に備えて、何か準備をしていますか」という設問において、「体力の増進や健康の維持」（26.0%）と「財産形成（貯蓄、有価証券など）」（25.9%）の２項目が、僅差で上位２位を占めている（図表１）。

ただし、経済面での準備には、貯蓄以外にもさまざまな方法がある。そこで、先の「財産形成（貯蓄、有価証券など）」に、「民間の個人年金の加入」「民間の医療保険への加入」「民間の介護保険への加入」を含めた計４項目を「経済面での準備」として再集計した。その結果、いずれかを行っている人の割合は図表１のとおり、41.3%となった。「特に準備していない」と答えた人が40.0%を占める一方で、高齢期を見据えて準備を始めている人では、経済面での準備が最も多く行われている様子がうかがえる。

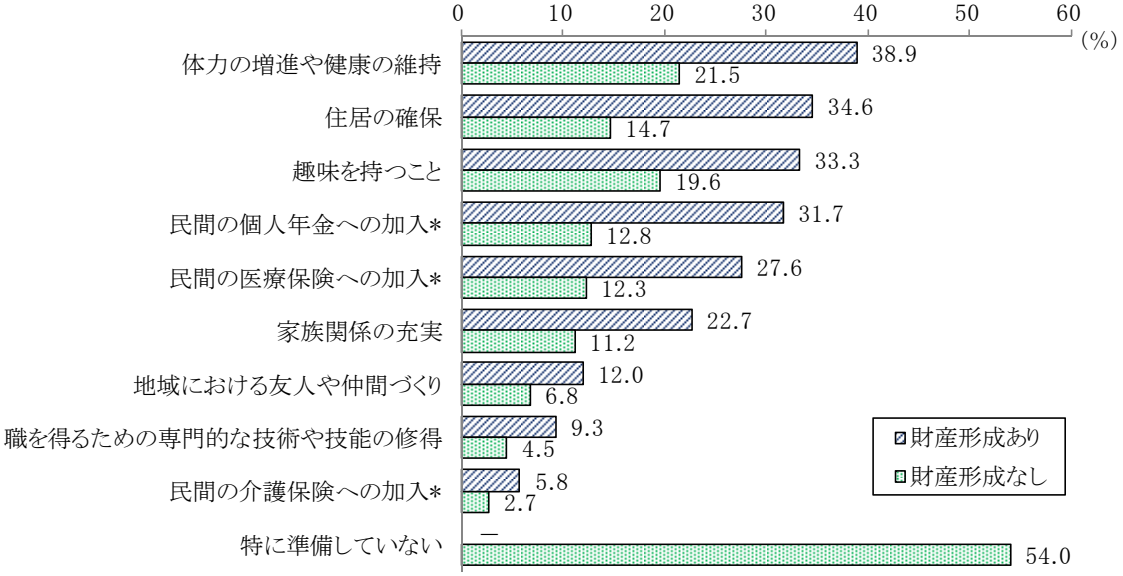
図表１　高齢期の生活に向けた準備（全体）＜複数回答＞



注　：対象者は全国の18～69歳の男女7,256名。*印は経済面の準備
資料：第一生命経済研究所「今後の生活に関するアンケート」2015年1月より作成

また、図表２は、高齢期の生活に向けた準備の状況を財産形成の有無別にみたものである。これをみると、「財産形成あり」の人では、「財産形成なし」の人に比べて、財産形成以外の面でも準備をしている人が多く、「財産形成なし」の人では「特に準備していない」が半数を超える。つまり、高齢期に向けて「財産形成」を行っている人では、財産形成を行っていない、ないしは行えていない人に比べて、それ以外の面でも準備を進めていることがわかる。

図表2　高齢期の生活に向けた準備（財産形成の有無別）＜複数回答＞



注　：対象者は図表1に同じ。「財産形成あり」は、高齢期の生活に向けた準備として財産形成（貯蓄、有価証券など）をあげた1,880名。「財産形成なし」は、それ以外の5,376名

資料：図表1に同じ

＜「老い支度」の優先順位＞

もちろん、われわれが豊かな高齢期を迎えるためには、お金の面での準備だけでなく、健康の維持・増進や趣味をもつこと、人間関係の充実など、心身の充実も大切である。最近ではこれらに加えて、自分の死後のお墓やお葬式のことまで準備する、いわゆる「終活」もブームだ。しかしながら、先にもみたように、多くの人の「老い支度」では経済面での準備が最も多く行われており、それ以外の準備までは、なかなか手が回らない人が多い実態が確認できる。

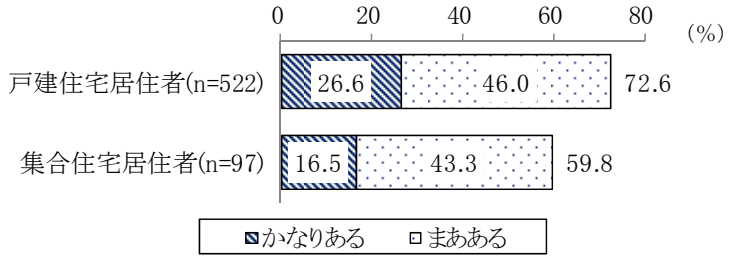
このような傾向をふまえると、人々の「老い支度」に関して次のように考えることもできるのではないだろうか。１つは、「老い支度」において多くの人は、老後生活にある程度の経済的見通しが立ってはじめてそれ以外の準備に目を向ける余裕が生まれるのではないか、という点である。もう１つは、経済面での準備を優先しすぎると、それ以外の準備を始める時期が遅れてしまう可能性があるという点である。このような見方をすれば、個々人の老後生活のライフデザインを考えていく場合に、経済面での準備とそれ以外の準備のバランスを意識することも重要になるのかもしれない。

＜60歳代を迎えてから、かつ元気なうちならではの「老い支度」＞

このようななか、数年前からは老い支度のメニューとして、自宅にある所有品の整理・処分も注目されている。現在、60～70歳代を迎えている人々には、子育ての時期、つまり家族の人数が増える時期に合わせて持ち家を取得した人が多い。その結果、子どもが巣立って家族の人数が少なくなった後も、かなりの広さの住宅に夫婦２人、あるいは１人だけで住んでいるケースが少なくない。そこにはかなりのモノが置いてある。そのなかには、さまざまな思い入れがあるがゆえに、簡単には整理・処分しきれないモノも含まれているようである。

実際に、筆者が全国の60歳以上の夫婦２人暮らし世帯の男女を対象に行った調査によると、自宅にどうしても捨てられないものが「かなりある」と答えた人は持ち家の戸建住宅居住者で26.6％、「まあある」と答えた人（46.0％）を合わせると計72.6％を占めた（図表３）。老い支度のタイムデザインという観点からみると、これらのモノを整理する場合にはタイミングが極めて重要になる。なぜなら、所有品や思い出の品は、長い年月の積み重ねとともに増えるものの、それらを整理・処分する作業にはかなりの体力や気力が必要になるからだ。現実問題として、あまりに高齢になってからだと、気力や体力の面で作業が困難になる可能性が否定できないし、なかには大型家具をはじめ、処分に費用がかかるものもある。また、所有品のなかには、できれば誰にも知られずに処分したいものや、将来介護を必要とする事態になっても肌身離さずもっていたいもの、処分するにはしのびなく、誰かがもらい受けてくれるのであれば譲りたいものなど、自身でなければ仕分けの判断が難しいものも多いと考えられる。

図表３　自宅に「捨てられないモノ」はどのくらいあるか



注　:回答者は、持家に居住する全国の60歳以上の夫婦2人暮らし世帯男女（当研究所の生活調査モニター）。調査時期は2012年11月

資料:第一生命経済研究所「お住まいについての意識調査」 2013年3月

＜60歳以上男女が自宅で大切にしているもの＞

では、彼らはいったいどのようなモノをどのような理由で大切だと感じているのか。図表４は、先の調査において、60歳以上の夫婦２人暮らし世帯の男女が、自宅でもっとも大切にしているものについて書いた自由記述回答である。これをみると、嫁入り道具の家具をはじめ、アルバムや写真、ペットや植木などバラエティ豊かな回答が並

ぶ。その理由をみれば、本人にとってはいかにも大切なものであり、各々並々ならない思い入れがある様子もうかがえるだろう。

しかしながら、こうした思いを他の人が共有できるかといえばかなり微妙でもある。同居する配偶者を含めて、家族であってもこのような思いを理解しているとは限らないだろう。これらの理由から、所有品の整理・処分、そして譲渡は、やはり本人の判断で行うのが望ましいと考えられる。

図表4　自宅で最も大切にしているモノとその理由（自由記述）＜抜粋＞

種類		主な理由
家具	和ダンス	昔からの着物がいっぱい入っているから（60代女性、一戸建て）
	三面鏡	結婚時の嫁入り道具（60代女性、一戸建て）
	デスクと椅子	経済的に苦しい時に無理して購入した、やや高級品だから（60代男性、一戸建て）
	洋服ダンス	主人と2人で選んで、我が家の家具の中で最も高級だから（60代女性、一戸建て）
	システムコンポ	お気に入りのアンプ、チューナ、プレイヤーが揃っている（60代男性、一戸建て）
	桐ダンス、三面鏡	結婚時、亡き母に変わり父が持たせてくれた思い出ある品です（70代女性、一戸建て）
	家具	今までの人生の思い出が詰まっているから（70代女性、一戸建て）
アルバム・写真	アルバム	自分史と孫（5人）の育史（60代男性、一戸建て）
	子どもの写真	子どもは宝物だから（60代女性、一戸建て）
	アルバム	子どもの成長が分かり、家族の歴史がわかる（60代女性、一戸建て）
	アルバム	結婚して2人の子どもが独立して、孫の写真を見てうれしく思います（60代女性、一戸建て）
	孫たちの写真	少しずつ大きくなって新しい写真に入れ替えるのが楽しみ（60代女性、一戸建て）
	アルバム	写真が好きで、旅行もあちこちよく行き、思い出がいっぱい（70代女性、一戸建て）
	アルバム	将来時々開いて、思い出を振り返ることができるから（60代女性、一戸建て）
	アルバム	誕生時から現在に至るまでの思い出、記念が詰まっているから（70代男性、一戸建て）
	アルバム	思い出の品であるとともに、もし災害で無くしたりすると作り直しがきかないから（60代男性、一戸建て）
ペット	ペットの猫	妻の心の健康によい（60代男性、一戸建て）
	ペット	生活を共にしてきた猫も長く暮らしていると子どもの様に可愛いから（60代女性、一戸建て）
	ペット	長年一緒にいるがすごく我々思いで、なんでも先取りして心配してくれる（70代男性、集合住宅）
	ペット	夫婦2人になって飼った子犬で、子どもみたいに可愛がっている（60代男性、一戸建て）
	ペット	僕の言う事をよく聞いてくれるから（70代男性、一戸建て）
	ペット	小さい命だけど、夫婦の間の空気をよく読み、かすがいになっていると思う（70代女性、集合住宅）
	犬	無条件に愛らしい（60代女性、一戸建て）
	ペット	全てが可愛く甘えてくるところ（60代女性、一戸建て）
植木	植木	面倒を見てあげるとそれに応えてくれます（70代女性、一戸建て）
	庭の植木	幼木より育ててきたため（70代男性、一戸建て）
	樹木類	若木の頃から手入れしていて愛着がある（60代女性、一戸建て）
	庭木	大切に育てているから（60代男性、一戸建て）
	植木	食べられる果樹を8種植えたので、一年中楽しみです（60代女性、一戸建て）
	観葉植物	手をかける程立派に育つ（60代女性、一戸建て）
	盆栽	小さな苗木から育てて、樹齢が30年以上たち、愛着があるから（60代男性、一戸建て）
	花、植木	ほとんど毎日世話をして育てているから（70代男性、一戸建て）
	植木	子ども達の誕生を祝って、亡くなった父が植えてくれたから（60代女性、一戸建て）

注・資料は図表3に同じ

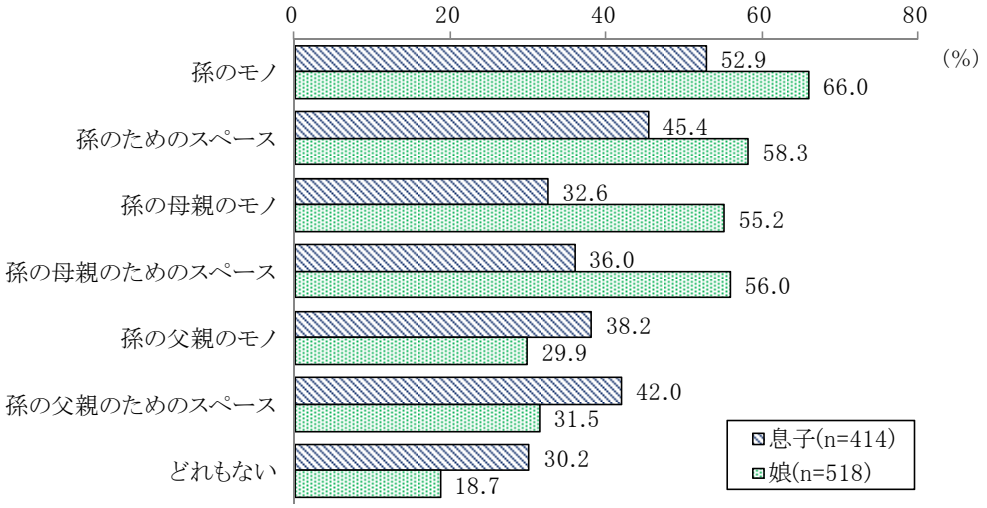
＜祖父母の7～8割が、自宅に子や孫のモノ・場所を確保＞

自宅にある所有品の老い支度をめぐっては、将来、突然入院した場合や万が一の場合に「子どもの迷惑にならないように」という文脈で、早めの整理・処分の必要性を説くセミナー等も盛況である。また、実際に、親の残した荷物や自宅の整理・処分に苦労した子どもによる体験談を綴った記事や書籍を目にする機会も多い。

しかし、筆者が行った調査からは、彼らがこれらの老い支度を始めるタイミングには、もう１つの重要な判断が必要になることがうかがえる。なぜなら、彼らの自宅には、すでに親元を離れて独立した子どもや、その後生まれた孫が使うためのモノやスペースもかなりあるからである。

図表５は、子や孫と別居する55～74歳の男女の自宅に、子どもや孫のモノ、あるいはスペースがあると答えた人の割合を示したものである。これをみると、別居する息子がいる人の７割、娘がいる人にいたっては８割以上が、自宅に子や孫のモノあるいはスペースがあると答えていることがわかる。つまり、これから高齢期を迎えるシニア世代を含めて、50歳代後半から70歳代前半の男女の自宅やそこにある所有品には、別居する子やその孫のためのモノやスペースが含まれている。先の図表４でみたように、子どもが幼かった頃の写真やビデオなど、家族の思い出の品を大切に保管している親は少なくない。あるいは、別居する子の住む家には十分な収納スペースがないため、比較的スペースに余裕のある親の家を荷物置き場のようにして季節はずれの衣類などを保管しているというケースもあるようである。

図表5　祖父母の自宅にある、別居の子や孫のモノ・場所
（最も親しくしている子の続柄別）＜複数回答＞



注　:回答者は株式会社クロスマーケティングのモニターのうち、孫と別居する全国の55～74歳の男女。回答内容は、最も親しくしている別居の孫とその親に関することであり、調査票では「モノ」について「食器・歯ブラシ・衣類・おもちゃ・学用品などの生活用品」、「スペース」について「部屋・スペース」としている。

資料:第一生命経済研究所 「孫の教育への関心と孫とのコミュニケーションに関する調査」 2014年11月実施より作成

＜老い支度と子や孫の荷物＞

このように、子どもや孫が訪れたときに使うモノや場所を自宅に用意している親が多い実態からは、離れて住む子や孫がいつ訪れてもいいように、あるいは、いつでも戻ってこられるように、といった親心も感じられる。しかし、先にも述べたように、親自身の老い支度のタイムデザインを見据えた場合、親がそれらの整理・処分、譲渡を自らの判断で行うことができる期間は「元気でいられるうち」に限られている。子どもが巣立ったあとも､子や孫のためのモノやスペースをそのままにしておくことは、親自身の老い支度のスタートを遅らせてしまうことにつながるかもしれない。

子どもや孫の荷物や部屋にはたくさんの思い出があって、片付けるのは辛いと感じる人もなかにはいるだろう。しかし、荷物の整理について子どもと相談してみることは、親夫婦が自分たちのそれまでの人生や将来の介護について向き合ったり、子どもが自身の将来について考えるきっかけになる面もあるのではないだろうか。

（きたむら　あきこ　主任研究員）